

SFC 研究所所長 殿

SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	アドバンスド・パブリッシング・ラボ				
ラボ代表者	氏名	村井 純	所属	環境情報学部	
ラボ設置期間	2017年6月27日 ~ 2019年3月31日			2	年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
村井純	環境情報学部 教授	代表
中村修	環境情報学部 教授	アドバイザー
加藤文俊	政策・メディア研究科委員長・環境情報学部 教授	研究メンバー
宮垣元	総合政策学部 教授	研究メンバー
和田龍磨	総合政策学部 教授	研究メンバー
佐藤雅明	政策・メディア研究科 特任准教授	研究メンバー
岸上順一	環境情報学部 訪問教授	研究メンバー
村田真	政策・メディア研究科 特任教授	研究メンバー
芦村和幸	政策・メディア研究科 特任教授	研究メンバー
吉井順一	SFC研究所所員	研究メンバー
新名新	SFC研究所所員	研究メンバー
浅野貴史	SFC研究所所員	研究メンバー
高見真也	SFC研究所所員	研究メンバー
吉澤直美	SFC研究所所員	研究メンバー・事務局

年次活動実績報告

研究活動報告（設置申請書、継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。）

各Working Group (以下WG) の活動報告

1) EPUB WG

前年度に続きEPUBをめぐる国際標準化の活動に参画し、日本語表記とEPUBの調和を図る活動を行なった。epubcheck開発のプロジェクトにも積極的に関与し、日本における電子書籍ビジネスの現状に即した開発の支援も推進している。

2) Accessibility WG

読書バリアフリー法などに則ったデジタル技術の活用によるアクセシビリティの研究を行った。視覚障害者のみならず聴覚障害者対応も視野に入れ、出版物をアクセシブルにするためのガイドライン制定を目指すと同時に、社会に対する啓蒙活動も実施した。ORFでは「情報アクセシビリティの推進」と題して読書バリアフリー法やマラケシュ条約をきっかけとした情勢の変化の中でAPLという日本の出版業界と世界標準化組織のW3Cの両方に深い関係を持つメリットを活かしながら、誰もがアクセスできるオンライン上の情報の実現のための議論を、角界からの識者をお招きして議論をした。

3) 日本語書記技術WG

当該年度はデジタル技術の視点から見た日本語書記に関する研究を行うとともに、セミナーの開催などその成果を広く社会や教育現場に公開する活動を行なった。

4) 広報WG

Advanced Publishing Lab.のwebサイトを維持し、本ラボの活動状況およびその成果を公開するセミナーなどを開催した。2020年1月10日には「EPUB3.2と電子出版国際標準の最新動向」と題して150名の聴講者を集めて発表を行なった。EPUBを取り巻く状況や電子書籍の課題、フォントへの要請、CSS自動分かち書きなど、業界が必要とし未だ統一がされていない各種技術の制定と課題の発表と共有は現場が必要とするものであり、当業界から大きく評価される催しとなった。

5) LCP (Lightweight Content Protection) WG

LCPのSC34での標準化 (Technical Specification化)を行うこととした。デバイスへの紐付けを存在させなかったが、官戸kの提案によりその機能は別パートとして制定した。これにより独占的なDRM以外の選択肢を推奨することができ、TS 23078出なくとも問題点を解決できるDRMを普及させる方式を増加させたことが大きな貢献であった。

6) 健全なネット取引WG

メディアドゥ社「MyAnimeList」サービスを例にとりて読者投稿型サービスに関するヒアリングを行なった。メディアドゥ社が日本内外で運営するサービスの「MyAnimeList」を特定して調査したが、「漫画やアニメの画像（キャラクター画像等を含む）、動画等を、読者・視聴者がどこまで「自由に」使用することができるかという課題が改めて浮き彫りになった。「マンガ新聞」では、コマ画像の使用について許諾取得を原則とするなど、明示的な権利の許諾を求める姿勢をとることで、著作権法を遵守する姿勢をとっている。このために法的安定性は高いサービスとなっているが、機動的な情報提供や利用者の参加の点でハードルが高くなるという問題も抱えており、この点での対策が必要である。また、アムタス、パピレス、NTTソルマーレ、イーブックイニシアチブジャパン、ビーグリーの電子書店5社で構成される日本電子書店連合からのヒアリングも行ない、市場の発展において障害となりうる法的課題について①電子書籍の「中古」の販売、②読者の購入履歴の保護、③読者のSNS利用時のルール明確化、④不法な権利侵害クレームに対する対応が挙げられた。連合からの要望を受け、特に③への論点の整理を進めた。

Advanced Publishing Laboratory 日本語初期技術WG報告書 :

[https://310f52f6-](https://310f52f6-bf6e-4d70-bd86-07371d7f98c5.filesusr.com/ugd/eb8538_e921485ff03b4900aff942b28019d9f4.pdf)

[bf6e-4d70-bd86-07371d7f98c5.filesusr.com/ugd/eb8538_e921485ff03b4900aff942b28019d9f4.pdf](https://310f52f6-bf6e-4d70-bd86-07371d7f98c5.filesusr.com/ugd/eb8538_e921485ff03b4900aff942b28019d9f4.pdf)

電子書籍 (EPUB 3) によってプリントディスアビリティに対処するための標準化動向 :

<https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/info/epub3.html>